

# 平成28年度 社会福祉法人ふたば園

## 事業報告

平成28年度の基本計画に係る概況について〈法人統轄事項〉

1) 継続事業について〈各事業拠点別 事業報告 参照〉

2) 新規事業について

4月1日より旧増山邸にて、中高生を対象とした放課後等デイサービス事業 えーるを開設運営した。

3) 経営実施状況について

A) 準職員規程の整備

- 従来の準職員の位置づけを正規職員に準ずる職員として各規程を整備した。将来の正規職員という位置づけを明確化することで職員のやる気を引き出す狙いがある。

B) 人材確保について

入職（42名）

	から ふる	のびっ こ	なな いろ	三見 障害	給食	ケア マネ	キー パー	デイ	事務	就労 A	ほっと わーく	合計
正職員	1	1		1		1						4
特契約	2	1	1	7		1					1	13
パート	3	4	2	4	2		2	1	2	5		25

退職（32名）

	か ら ふる	の び っ こ	え ー る	な な いろ	三 見 障害	給食	デイ	事務	就 労 A	ほ っ と わ ー く	合計
正職員	1				2						3
特契約	2	1	1		3		1			1	9
パート	1	2		2	4	2	2	1	6		20

4) 職員研修について

A) 法人内部研修

- 「法人研修委員会」の計画の下に、法人新任研修、中級職研修、上級職研修、指導職研修を実施した。その他、応急救命、感染症予防研修も実施する。

B) 各種外部研修

- 県内・県外で開催される各種研修参加を実施した。

5) 役員会

A) 評議員会の開催（定例会）

- 第1回評議員会……………平成28年5月26日（決算認定・理事選任）
- 第2回評議員会……………平成29年1月26日（定款の全部変更）
- 第3回評議員会……………平成29年2月23日

（第1次補正予算、育児・介護休業等に関する規程の一部変更、評議員選任・解任委員会の設置及び運営細則、評議員選任・解任委員会の選任、評議員候補者の推薦）

- 第4回評議員会……………平成29年3月24日

（第2次補正予算案、平成29年度事業計画及び収支予算案、準職員就業規則、準職員給与規程、定款施行細則の変更、職員給与規程の一部変更、経理規程の一

部変更)

## B) 理事会の開催 (定例会)

- ① 第1回理事会……………平成28年5月26日 (決算認定・理事選任)
- ② 第2回理事会……………平成29年1月26日 (定款の全部変更)
- ③ 第3回理事会……………平成29年2月23日

(第1次補正予算案、育児・介護休業等に関する規程の一部変更、評議員選任・解任委員会の設置及び運営細則、評議員選任・解任委員会委員の選任、評議員候補者の推薦)

- 第4回理事会……………平成29年3月24日

(第2次補正予算案、平成29年度事業計画及び収支予算案、準職員就業規則、準職員給与規程、定款施行細則の変更、職員給与規程の一部変更、経理規程の一部変更)

## 6) 監査

- 決算監査 (年1回 平成28年5月13日実施)

## 7) 会議開催

### A) 施設長会議

- 毎月の開催を定例化し、必要に応じて随時開催した。法人運営上の基本的課題等について協議するとともに、今後のふたば園のあり方などについても協議を重ねた。

### B) 管理職務者会議

- 月1回の定例開催とし、各事業の報告やワーキング会議の報告などを受けて協議を行った。

### C) サービス品質管理委員会 (QC委員会)

- 月1回の定例開催した。

### D) プロジェクト会議

- 「ふたば園まつり実行委員会」を前年度3月より実施月(5月)にかけて開催した。

### E) その他

- 「ほほえみ運動会実行委員会」を関係施設と7月より実施月(9月)にかけて開催した。
- その他、各事業毎に関係機関との連携・連絡会議に参加した。

## 8) 情報提供

- 法人事業のインターネットを通じて情報発信・公告の拠点として、ホームページを運営

## 9) 地域活動

### A) 地域活動・イベントの実施・参加

- 主催イベントとしては、地域交流を目的とする「第8回ふたば園まつり」を5月21日に開催した。
- その他に、地域開催イベントへの参画を継続した。

### B) 法人が管理する施設設備等の活用推進

- 河添介護予防センター ほほえみはもとより、からふる内のおもちゃ図書館の地域開放を継続した。

## 平成 28 年度児童発達支援センターからふる事業報告

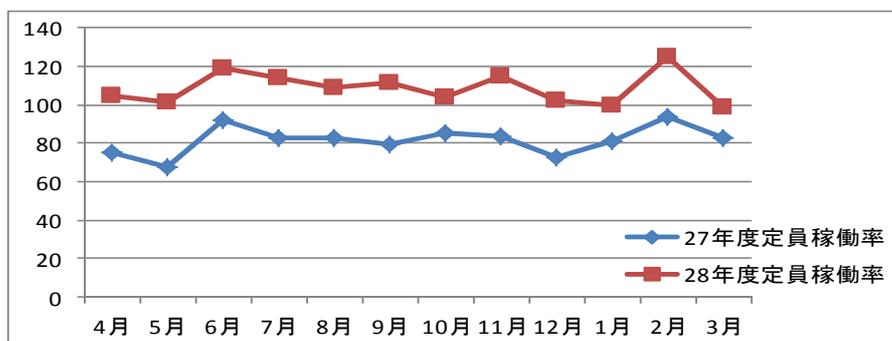
関係機関や地域との連携がより強固になり、併せて気になるお子さんへの早期からの支援の必要性が重要視されてきたこと等で、からふるの利用児は増加傾向となった。また、保育園等への訪問支援についても利用者が増えてきている。

その結果、からふるの運営や経営は安定してきているが、サービスの提供の幅が広がったり、年度当初からの待機児童がいるなど今後のサービス提供の在り方が課題である。

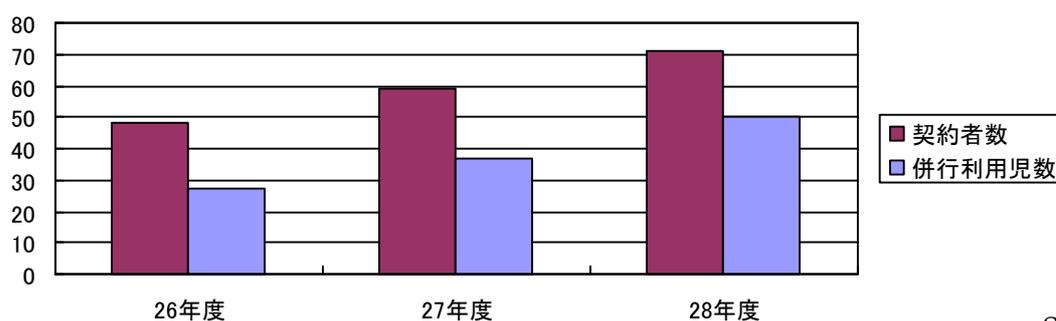
### 【児童発達支援事業】

- 28年度は、4月時点で定員数30名に対して68名の契約者となり、待機登録を行ってもらう形になった。保育園や幼稚園との併行利用の開始や登園日数の減少に伴い、年度内で待機登録を解消できたのは3名である。
- 利用契約児は増加していると同時に併行利用児も増えてきており、他機関との連携や就学支援など、職員の業務量や事務量が増えている。
- 保護者支援のための延長保育は15名の登録があった。(8:00~8:30、16:30~18:00)可能な場合は、保育園まで送るなどして延長利用人数減を図った。通園バスや早出など延長時間に対応する職員の増加により、会議や業務遂行、事務時間の確保が課題となり、バス添乗員と延長対応の職員を配置した。
- 125%程度で利用調整をしているが、幼児期の利用者が対象であることから、体調不良等での欠席や保育園、幼稚園の行事の影響を受けやすい状況にある。

(図 1)

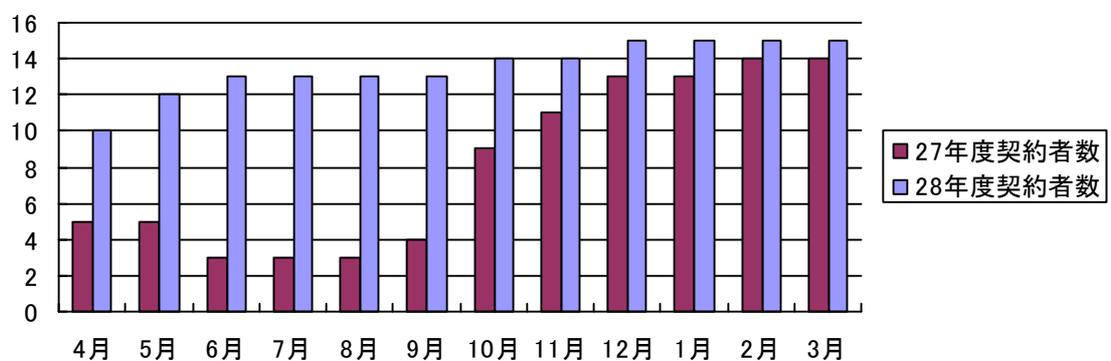


(図 2)



### 【保育所等訪問支援事業】

- 言語聴覚士・臨床心理士・保育士の多職種が訪問して療育を行うことで支援の巾が広がった。また、利用希望も増えてきているが、全てに対応するには職員の調整が難しく、待機をしていただく状況となった。
- 学校や学童保育など求められる支援の内容や支援場所も広がってきている。どのようにサービスを利用していただくか、どのようなサービスを提供できるかなど、今後の課題として地域と協議していく必要がある。また、支援者としての力量と支援の充実センター職員全体を通じて引き続き課題である。
- より多くの方に利用していただくために契約者を増やしたが、訪問支援担当者が余力がないため、訪問先の都合や保護者の都合による利用調整が困難であった。そのため、支援提供ができなくなるケースもあった。



### 【委託事業】

- 心身障がい児母子通園訓練事業

夏には、利用定員を超えたために利用調整を行った。萩市の保健師との連携が強化されたことで、利用される親子が増えている。部屋の広さの問題もあり、それ以上の利用を受けることもできないため、利用調整は続きそうである。

- 在宅障害児療育支援事業

山口県の委託事業をして以下の3事業を実施した。

- 在宅支援訪問療育等指導事業・・・巡回相談、訪問による健康診査を行った。
- 在宅支援外来療育等指導事業・・・障害児及び家族等に対し相談支援等を行った。
- 施設支援一般指導事業・・・保育所等の職員に対し療育に関する指導等を行った。

※29年度より、在宅支援訪問療育等指導事業の廃止と、対象者が、就学前の乳幼児に限定される。利用希望者への影響が出てくることが予想される。

- 発達障害児地域支援体制強化事業
  - ①スクラム菽を設置し、リソースブックの作成を行った。
  - ②発達障害児に関わる機関を対象に、研修会を実施した。
  - ③メンター相談会として、発達障害児の保護者への相談会を実施した。

#### 【地域支援・地域貢献】

- 児童発達支援の研修会開催
- 放送器具、綿菓子器、玩具、図書等の貸し出し
- 菽市5歳児相談会・巡回訪問（在宅障害児療育支援事業として）

#### 【人材育成・定着】

- 労働環境改善会議を設置し、働きやすい職場作りを目指した。
- 職員の効率的な働きと質の向上を目指し、休憩の取り方や超過勤務についての話し合いを持ち職員への意識付けをした。
- 療育の担当制やクラスを解体したグループ療育を実施し、職員が療育を実施しながら、相互に質の向上が図れるようにした。経験が少ない職員が多く、それぞれが意見を出し合い、考えていける良い機会となった。

## 平成28年度 放課後等デイサービス「のびっこくらぶ」・「えーる」

### 事業報告

今年度より、更なる支援の充実を図るために、これまでの『のびっこくらぶ』を主に小学生対象とし、新たに中高生を対象とした『えーる』を立ち上げ事業を行った。それぞれの事業所で、子どもたちが楽しくのびのびと過ごせるように、安全面に配慮しながら、療育支援・余暇支援に取り組んだ。また、子どもたち一人一人の特性を理解し、様々な経験の機会を提供した。

#### 【療育支援・余暇支援】

- ◆障がい特性に応じた個別支援、年齢に応じた活動や交友関係構築の支援を行った。

#### 「のびっこくらぶ」

- 指導室が広く使えるようになったことで、のびのびと活動できるようになり、指導室内での活動の幅も広がった。課題等にも落ち着いて取り組むことができるようになった。
- 子どもたちが自発的に且つ、意欲的に活動に取り組むことができるように環境を整え、視覚支援を行うことなどに配慮した。

#### 「えーる」

- 仲間意識が強くなり、友だち同士で励まし合ったり、助け合ったりしながら活動を楽しむ姿が増えてきた。自分たちで考えたり、話し合ったりする場面を増やしていくことで、活動に対する意欲に変化が見られるようになった。
  - 卒業後を見据え、お仕事活動を取り入れるなど目的をもって積極的に取り組めるように配慮を行った。
- ◆地域の社会資源を活用する機会を増やし、その中で様々な体験ができるように計画を作成し支援を行った。
  - ◆保護者の意見だけでなく、特に「えーる」では子どもの思いも反映した個別支援計画を作成し、個々の支援を行った。

#### 【関係機関との連携】

- ◆萩総合支援学校をはじめ市内の小・中学校や関係機関と定期的に情報交換会を行う等、連携の強化を図りながら支援の充実に努めた。
- ◆他事業所や相談支援事業所と連携を図りながら子どもたちに必要なサービスが提供できるように努めた。

#### 【自己研鑽】

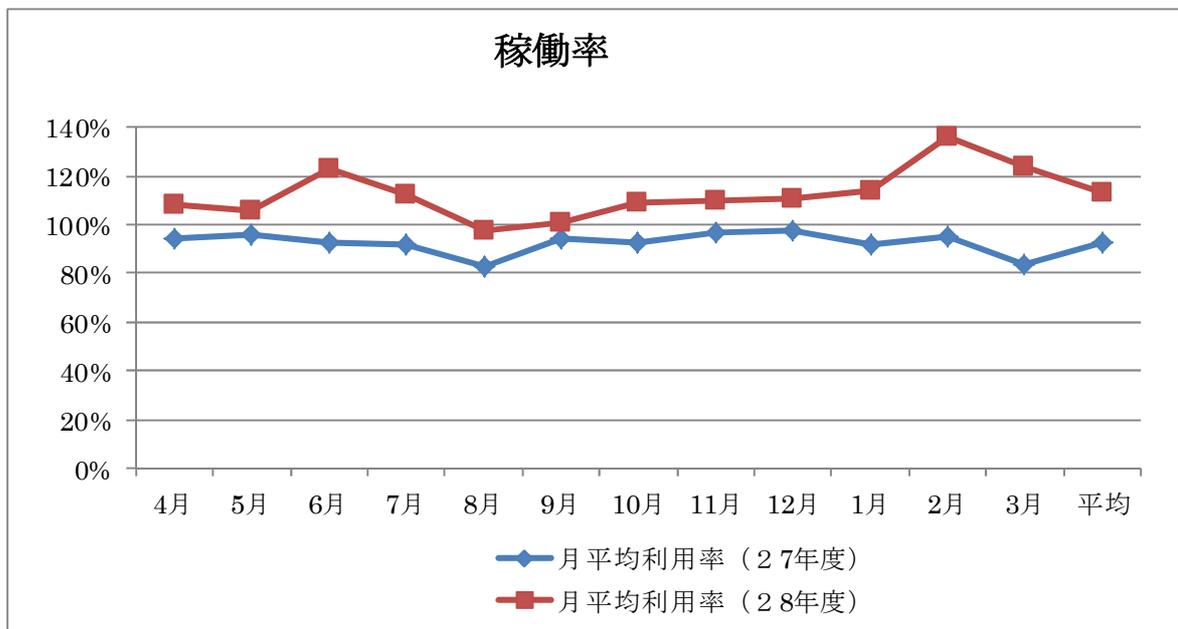
- ◆各種研修会に参加し、自己研鑽に努めた。

【利用実態状況】定員：各10名

## ★のびっこくらぶ

\*登録人数 32 名

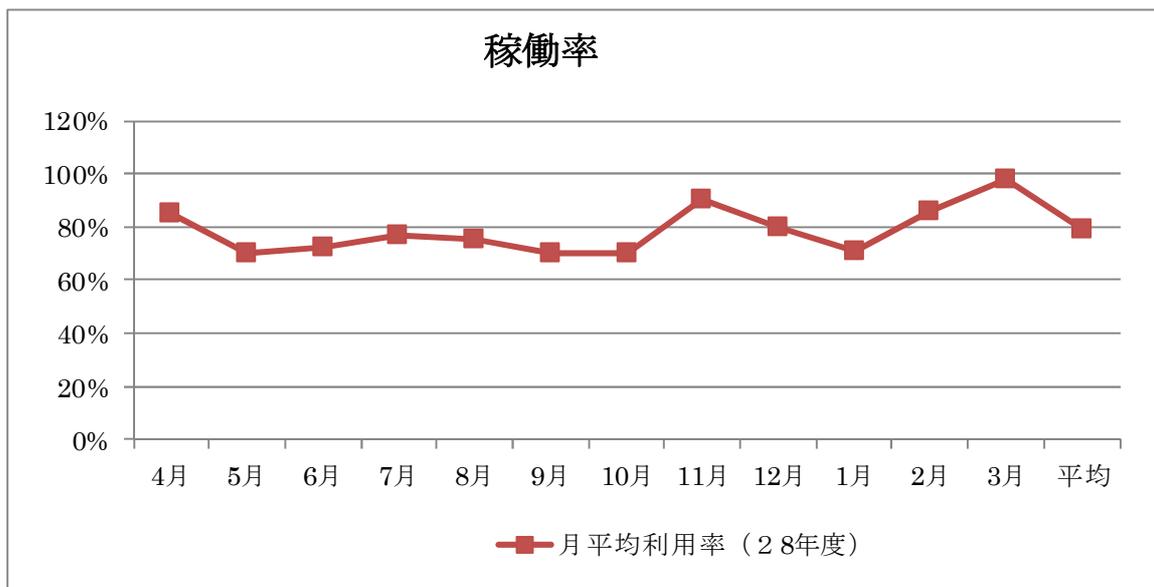
\*契約児童は増加の傾向にあり毎月利用調整をせざるを得ない状況があった。稼働率の年平均は 100%を超えた。



## ★えーる

\*登録人数 23 名

\*他事業所で行われている週 2 回の運動クラブに利用が集中する等、曜日によって利用希望が少なく、開所初年度の稼働率は 80%に満たなかった。



## 平成 28 年度 なないろ（障害福祉サービス事業所） 事業報告

### 重点事業方針についての取組結果

平成 28 年度は、就労継続支援 B 型の事業定員を 24 名に増やし、施設外就労の拡充を図った。

結果として、萩市障がい者作業協議会との連携の中で『萩スタジアムトイレ清掃業務』と『やすらぎ苑清掃業務』の 2 件の新規作業を確保することができた。しかしながら、平成 28 年度途中から、明倫館の運営が NPO 法人となり、これまで行ってきた『明倫館維持管理業務』が建物工事等のため、縮小し、平成 29 年度からは、年間 10 万円程度の規模に縮小となった。平成 28 年度の施設外就労全体の収益については、約 440 万円となっている。

また、生活介護事業では、3 名の方が B 型事業との並行利用を始められたため、定員管理が困難となることも生じるようになった。

今後については、再度定員の見直しを実施し、それぞれの事業での利用者動向も見ながらバランスを取っていく必要がある。

### 就労継続支援 A 型について

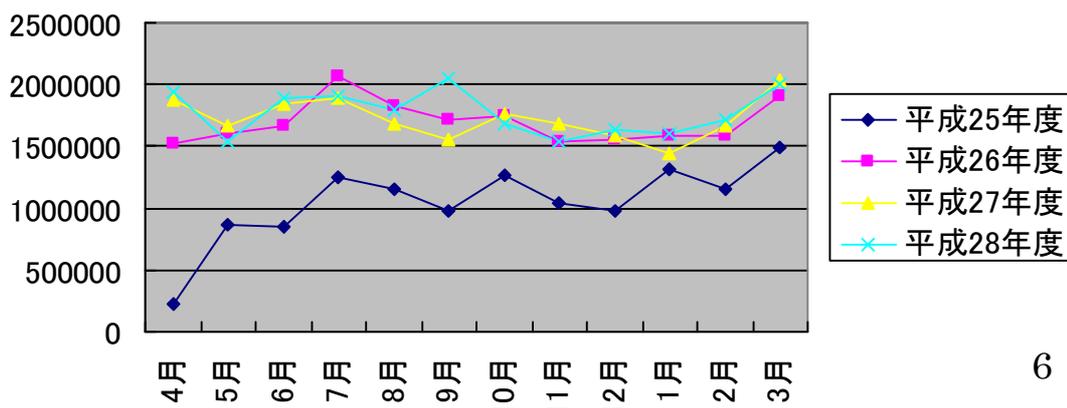
平成 28 年度売上は、喫茶・弁当部門で約 2,130 万、給食提供部門で 1,630 万となり、全体収益比は 103%の増収となり、昨年度に引き続き、前年度収益を上回ることができた。内訳をみると、飲み物、ケーキ売上が前年度比 85%で減収、配食弁当については、前年度比 114%で増収となっている。

食材等の支出については、昨年とほぼ変わらず 2,000 万円代で推移しているが、消費税等の動向等は継続的な課題として残っている。

雇用面については、3 名の方が一般就職をされ、1 名の方が別の A 型事業所へ転職をされました。その後、雇用した利用者については、安定して働くことが難しく、業務内容や勤務時間、働きかけ方等に配慮をおこないました。また、昨年度に引き続き、開店時から勤務している方 1 名を常勤雇用とした。

平成 30 年からは、会計基準の厳格化が示されており、福祉的視点に加えて、商品開発、コスト意識、雇用環境の見直し等、経営的視点をさらに取り入れて、事業を運営していく必要が生じている。

喫茶部門売上総額(4年分)

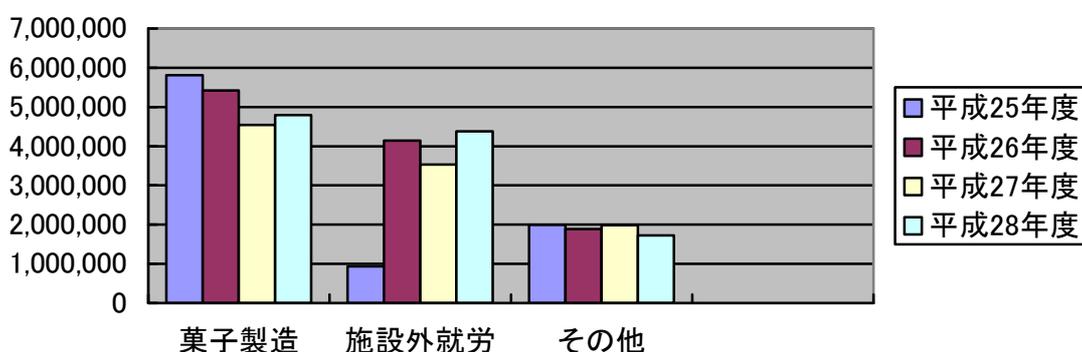


## 就労継続支援 B 型について

萩米香（はぎこめか）部門では売上げ目標を 38 万円としていたが、年間 20 万円増収で、月平均売上が約 40 万円となり目標を達成することができた。また、年度途中から蒸気饅頭の定期販売化や、木与のなぎさ米を使用した新ブランド『アブリガトー』の立ち上げなど地域に根差した事業運営を行った。

事業所内受託作業については、作業室内にパーテーションを使用し、集中して作業ができる環境を作ることで、障がい特性や対人関係に配慮を行いトラブルの減少に努めた。

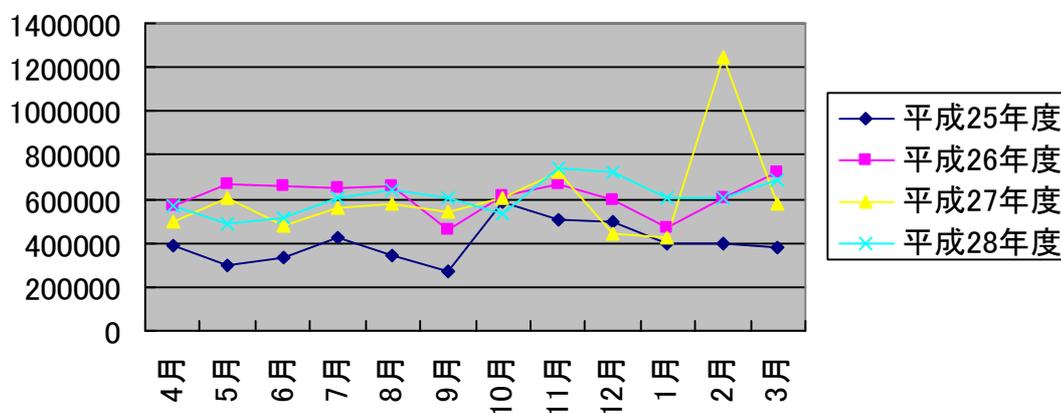
B売上各部門比較(4年分)



工賃の支払総額は、731 万円で昨年に比べ、ほぼ横ばいで推移した。平均工賃については、支払対象者の増加に伴い、減少した。

平成 27 年度工賃実績 18,037 円      平成 28 年度平均工賃 17,001 円

工賃支払総額(4年分)



## 就労移行支援について

平成 28 年度は、委託訓練を経て、1 名が一般就職をされた。活動としては、新たに清掃掃業に関する模擬会社を運営するプログラムを実施し、実就労に近い形での訓練を行った。また、制度上、直接、就労継続 B 型事業を利用することができない方に対して就労アセスメントを実施した。(平成 28 年度 3 名)

## 生活介護事業について

毎週、火曜日・金曜日の野菜市の実施や、花壇管理、トイレトペーパー販売などこの事業を利用する人たちが主体的に関わることでできる働き方、仕事の提供を行った。また、仕事で得た給与を活動などで使用するプログラムも実施し、働くことの目的や意欲向上を学ぶ場を提供した。

昨年度の取り組みを発展させ、作業療法士を中心に、リハビリテーション計画を作成し、個々に応じた機能訓練の提供を継続的に実施した。

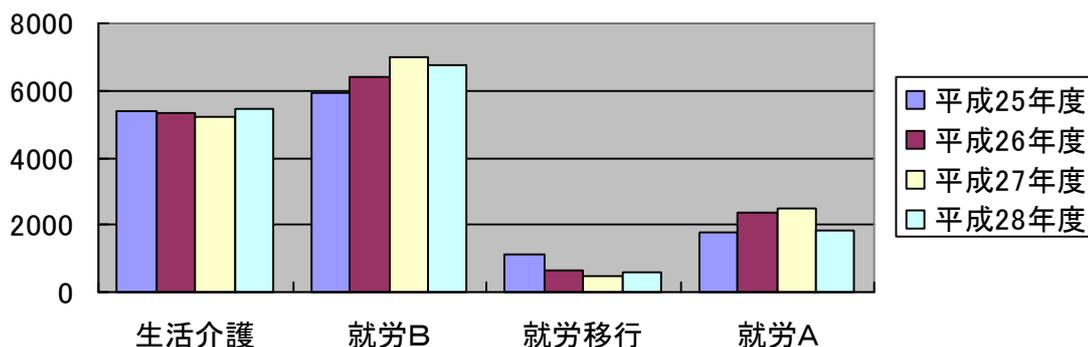
## 平成 28 年度利用実績について

昨年度と比較し、全体では平均利用者数が 1 名減少した(平成 27 年度 58.5 名⇒平成 28 年度 57.3 名)。就労継続 B 型の減少と生活介護の増加には相関関係があり、それぞれの増減は、並行利用者の延べ利用日数となっている。

就労継続 A 型の利用実績の減少については、一般就職などで退職した方に代わる補充がうまくいかない事と、体調不良で入院をする方がでていることが要因になっている。

今後は、市内に新規事業所の建設等で総合支援学校からの卒業生利用の減少や、市内の精神科からの移行ケースの減少が生じる可能性があるため、より魅力的なプログラムやサービス提供を行うための環境づくりが必要である。

のべ利用者数比較(4年分)



重点事業方針に以下を掲げました。

- ◆地域の拠点施設としての役割が果たせるよう努めていきます。
- ◆誰もが安心して「暮らせる」場、楽しく「過ごせる」場となるよう努めていきます。

○入所支援

- ・主な継続加算：夜間職員配置加算、重度障害者支援加算
- ・見守りを強化し事故防止に努めました。
- ・医務チームでは、誤薬を防ぐ取り組みや健康管理について部内検討を重ね、かかりつけ医との連携強化を図りました。また利用者家族同意の下、一部かかりつけ医を変更しました。
- ・給食チームは、栄養士との協議を重ね、配慮食や介助器具について昨年以上に個別化を図りました。

○生活介護

- ・主な減算：人員配置体制加算（H29.2 I→II）
- ・長年の課題であった日帰り旅行（海響館）を実施しました。
- ・個々の併行利用ニーズに伴い、曜日毎の単日利用が増えました。
- ・生産活動（鶴惣作業）では多くの方が取り組める、比較的納期の長い作業に取り組みました。今年度、21 名の方が携り、年間一括支払いですが工賃を支払いました。

○短期入所

- ・地域ニーズに応じ、新規利用者様の受け入れも行いました。
- ・萩市外市町から見学の問合せが数件ありました。

○日中一時

- ・地域ニーズに応じ、新規利用者様の受け入れも行いました。
- ・萩市外市町から見学の問合せが数件ありました。

施設 入所 定員 :	18	H28 年度	H27 年度		H28 年度	H27 年度	
		入所日数	のべ人 数(人)	開所日 数(日)	利用率	利用率	備考
3 0 名	4月	880	846	30	98%	94%	入所日数= 泊日数を 除す
	5月	893	862	31	96%	93%	
	6月	879	862	30	98%	96%	
	7月	868	904	31	93%	97%	
	8月	888	891	31	95%	96%	
	9月	877	870	30	97%	97%	
	10月	903	910	31	97%	98%	
	11月	881	872	30	98%	97%	
	12月	878	892	31	94%	96%	
	1月	866	862	31	93%	93%	
	2月	822	849	28	98%	101%	
	3月	902	905	31	97%	97%	
		10537	10525	365	96%	96%	

生活 介護		H28 年度	H27 年度	H28 年度	H27 年度	H28 年度	
		のべ人数 (人)	のべ人数 (人)	開所日数 (日)	開所日数 (日)	利用率	備考
定 員 : 50 名	4月	941	968	23	23	82%	
	5月	920	986	22	23	84%	
	6月	950	986	22	22	86%	
	7月	976	990	23	23	85%	
	8月	914	962	23	23	79%	
	9月	934	953	22	22	85%	
	10月	911	1003	22	22	83%	
	11月	929	948	22	22	84%	
	12月	959	961	23	23	83%	
	1月	955	953	23	23	83%	
	2月	848	895	20	21	85%	
	3月	963	1002	23	23	84%	
		11200	11607	268	270	84%	
	平均利用者数				41.79		
平均障害支援区分				4.5			

平成 28 年度		延べ利用者数	開所日数 (日)	利用率	利用件数	備考
短期 入所  定員： 6名	4月	88	30	49%	26	
	5月	72	31	39%	29	
	6月	76	30	42%	25	
	7月	92	31	49%	21	
	8月	62	31	33%	24	
	9月	79	30	44%	19	
	10月	63	31	34%	24	
	11月	78	30	43%	17	
	12月	55	31	30%	20	
	1月	80	31	43%	20	
	2月	74	28	44%	21	
	3月	105	31	56%	15	
合計		924	365	32%		

平成 28 年度		延べ利用者数 (人)	開所日数 (日)	利用率	利用件数 (人)	備考
日中一時 定員：2名	4月	6	30	10%	6	
	5月	2	31	3%	1	
	6月	6	30	10%	6	
	7月	5	31	8%	5	
	8月	3	31	5%	3	
	9月	0	30	0%	0	
	10月	1	31	2%	1	
	11月	4	30	7%	4	
	12月	2	31	3%	2	
	1月	4	31	6%	3	
	2月	2	28	4%	2	
	3月	3	31	5%	2	
合計		38	365	5%		

理念：地域の中で自分らしく暮らす

○重点事業方針である「より地域へ」を旨に、個々の支援計画をもとに入居されている方の将来像に向けた支援を目指しました。

#### 「食事作り」

2年目の食事作りの業務も定着し、はいつびわ、ほたるの、休日の「昼食作り」も、むたがはら、ひじわほ一むの「夕食作り」も、手際が良くなりました。メニュー、食材の買い出し、調理、片づけと一連の流れの中で、家庭的な雰囲気も感じられるひとときです。食費は平均300円程度です。

#### 「苦情」

ホームを12月に退去された利用者、ご家族より福祉サービス運営適正委員会に「人権侵害」と苦情を訴えられました。委員会より聞き取りをされましたが、サービスは適切であったと判断されました。関係機関と密に連携をとり支援していた結果だと思われま

#### 「防災対策」

はいつびわ・ほたるは、「土砂災害特別警戒区域」の指定を12月に受け、県の聞き取り調査を受けました。火災避難訓練 年2回と、今年は土砂災害避難訓練もおこないました。加えて不審者対応訓練等、いざという時にスムーズな避難対応が出来るよう法人内の研修にも参加しています。

共同生活介護・ 共同生活援助施 設定員 20人		H26年 度	H27年 度	H28年度		H26年度	H27 年度	H28 年度
		のべ人 数(人)	のべ人 数(人)	のべ人 数(人)	開所日数 (日)	利用率	利用 率	利用 率
はいつびわ 6人	4月	515	562	576	30	86%	94%	96%
	5月	496	557	580	31	80%	90%	94%
	6月	555	554	584	30	93%	92%	97%
はいつほたる 6人	7月	585	555	602	31	94%	90%	97%
	8月	551	561	595	31	89%	90%	96%
	9月	536	542	577	30	89%	90%	96%
ひじわらほ一む 4人	10月	573	577	606	31	92%	93%	98%
	11月	542	552	567	30	90%	92%	95%
	12月	558	556	563	31	90%	90%	91%
むたがはらホーム 4人	1月	568	563	560	31	92%	91%	90%
	2月	539	536	531	28	96%	96%	95%
	3月	593	564	579	31	96%	91%	93%
		6611	6679	6920	365	91%	91%	95%
平均利用者数		17.8	18.30	19.00				
平均障害程度区分			2.25	2.63				

萩市障害者生活支援センター ほっとすぺーす  
平成28年度 事業報告書

➤ 障害者（児）に対する相談支援

○支援対象者：454人（障害者298人・障害児156人）

○相談支援件数：延3696件

➤ 特定指定相談支援事業（障害者）及び指定障害児相談支援事業

障害者については、新規ケースは精神障害者が大半を占めている。一方減少ケースは介護保険への移行や別相談支援事業所への移行等が主な理由となっている。全体的には増減幅は少なく横這いとなっている。

障害児及び療育が必要な児童については、萩市の早期発見・早期療育という方針により相談件数が増え、今年度もサービス等利用計画作成数が増えている。障害児は就学等で一旦終了するケースが多くあるが、新規ケースも多数あり全体的には増加傾向にある。

1人の相談支援専門員の担当ケース数が障害者・児合わせて60～80人となっている。

○サービス等利用計画作成対象数

事業名	利用者数	27年度	26年度
特定指定相談支援事業	255人	258人	250人
指定障害児相談支援事業	179人	160人	115人
合計	434人	418人	365人

➤ 社会資源活用・社会生活力を高める支援事業

活動名	開催回数	参加者	備考
おでかけツアー	1回	9人	6/26 萩ツインシネマにて映画『名探偵コナン』鑑賞後、ガストにて昼食
ミニおでかけツアー	1回	13人	2/5 ボウリング

➤ 生活訓練事業

活動名	開催回数	参加者（延べ人数）	備考
レッツ☆ダンス	24回 (うちイベント参加4回)	172人 (うちイベント参加33人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5/21「ふたば園まつり」</li> <li>・8/6「萩総サマーナイトフェスティバル」</li> <li>・11/27「Hagi 産業フェスタ」</li> <li>・12/10「人権の心をはぐくむ市民の集い」</li> </ul>

ほっとすぺーす講演会	1回	110人	6/21『親亡き後の備えについて、今できること』 講師：鹿野佐代子氏
ゆうちょ財団主催 金融教育講座 *ほっとわーく共催	1回	20名	3/19「お金の上手な使い方を学ぼう」 講師：鹿野佐代子氏
料理教室	1回	6人	2/5 みんなの料理教室
お茶会	1回	28人	3/4 春のお茶会

➤ 本人活動支援事業・障害者ピアカウンセリング事業

活動名	開催回数	参加者（延人数）	備考
ぴあクラブ	9回 (うち1回行事参加)	37人	5/21 ふたば園まつりにて 啓発活動

➤ 障害者ピアカウンセリング事業

○家族のためのグループピアカン

- ・開催：8回
- ・内容：情報交換など
- ・参加者：28名（延べ）

➤ 意思疎通支援事業

○萩市手話通訳設置事業

- ・相談件数：1587件（派遣に関わる調整も含む）
- ・専任者通訳：95件

○意思疎通支援者派遣事業

- ・手話通訳派遣：309件
- ・要約筆記派遣：74件

○意思疎通支援者養成事業

- ・手話奉仕員養成講座開催：平成28年5月～1月の16日間  
受講者7名（うち修了者1名）
- ・要約筆記体験講座開催：第1回 平成28年5月21日（ふたば園まつりにて）  
第2回 平成28年8月28日（萩総合福祉センター）  
受講者8名

➤ 他機関の会議等へ出席

- 萩地域相談支援従事者連絡会議 月1回
- 乳幼児発達支援連携調整会議 月1回
- 萩地区心身障害児総合療育相談会 年4回
- 萩地区心身障害児総合療育システム推進会議 年1回
- お仕事ネットワーク北浦 研修会、実行委員会 年5回
- 萩・長門地域関係機関連携協議会 年1回

➤ 職員業務研修（相談援助技術に係る研修、障がい全領域に係る専門研修）

○主な研修派遣

- ・相談支援従事者専門コース別研修（障害児支援）…1名
- ・相談支援従事者専門コース別研修（地域移行・定着）…1名
- ・相談支援従事者現任研修（3日間）…1名
- ・児童・障害者（児）福祉施設等テーマ別研修  
「虐待防止と利用者の権利擁護」（2回）…1名
- ・法人交流研修 しらさぎ会館…2名
- ・サービス管理責任者等研修・児童発達支援管理責任者（3日間）…1名
- ・罪に問われた高齢者・障害者の刑事弁護における司法と福祉の連携のための  
第1回四会合同研修…1名
- ・第2回法廷傍聴企画～刑事裁判を見てみよう～ …2名
- ・みんなの支援フォーラムイン萩「EGFからの実践報告・検証」…1名
- ・第14回全国児童発達支援施設運営協議会広島大会（2日間）…1名
- ・市町設置手話通訳者研修（2回）…1名
- ・地域生活支援事業（意思疎通支援〔聴覚障害関係〕）に係るコーディネーター研修会  
（2回）…1名

ふたば園障害者就業・生活支援センター ほっとわーく  
平成 28 年度 事業報告

➤ 総括

センター事業開始から 8 年目となった 28 年度は、精神障害の方との繋がりが多くなりました。特に発達障害がある方との関わりが多かった年となりました。

就労支援では、職場定着支援に関わる支援頻度を高く感じます。安定して就業されていた方が、担当者との交代や業務内容の変更などにより企業側からの再支援以来ケースも有ります。

また、医療機関からの就労支援依頼の件数も多く、関係機関での会議を必要とするケースが増えてきている現状です。

毎年の様に生活支援に重点的に支援が必要な対象者が多く、就労担当者であっても生活支援に深く関わるケースもあり、引き続き相談支援事業所や医療機関・行政機関などの関係機関と連携し各機関で役割分担をしていく必要性を感じる。

主任職場定着支援担当者の配置も 2 年目となり、事業の内容等の PR も効果が現れてきており、雇用管理等の相談を受けたり、それに対しての助言、必要に応じて支援策に係る他の支援機関等への連絡調整をしております。職場定着が難しいと考えられるケースには、問題の所在の特定に向けて、事業主の方と共に取り組みました。また、自ら職場定着支援も行っております。

➤ 障害者に対する相談・支援

- 支援対象障害者数 196 人
- 相談支援件数 2,017 件
- 就職件数 34 件

➤ 事業主に対する助言

- 支援対象事業所数 82 事業所
- 相談支援件数 619 件

職場実習および職業訓練等のあっせん

- あっせん件数 18 件

➤ 雇用安定事業

- ○職場定着促進のための在職者交流活動の実施
- 関係機関との連絡会議の開催

	開催日	参加人数	実施内容	実施場所
第 1 回	平成 28 年 6 月 26 日	10 名	こころのケアについて	萩市民館研修室
第 2 回	平成 28 年 9 月 4 日	7 名	お金について考えよう	萩市民館研修室
第 3 回	平成 28 年 12 月 13 日	8 名	農業体験&食に関する講和	萩市
第 4 回	平成 29 年 2 月 19 日	5 名	お金について考えよう	長門市
第 5 回	平成 29 年 3 月 19 日	10 名	お金の上手な使い方を学ぼう	萩市

・障がい者就業支援関係機関連絡会 実行委員会

	開催日	参加人数	協議内容
第1回	平成28年4月12日	13名	28年度計画、連絡会案について
第2回	平成28年9月5日	15名	連絡会について
第3回	平成28年12月9日	11名	次年度計画について

・障がい者就業支援関係機関連絡会

	開催日	参加人数	テーマ	開催場所
	平成28年11月18日	41名	制度説明 北浦地域の障害者数と現状 ケース事例・グループ討議	萩市民館小ホール

※連絡会議を通じて担当者と顔の見える関係作りができ、対象者支援の際に必要な情報提供や機関連携がスムーズにできている。

○事業主に対するネットワーク支援活動の実施

・障がい者おしごとネットワーク北浦 実行委員会

	開催日	参加人数	協議内容
第1回	平成28年5月10日	10名	28年度計画、懇話会についての打ち合わせ
第2回	平成28年7月5日	11名	懇話会の反省、見学会の打ち合わせ
第3回	平成29年2月8日	9名	見学会の反省、次年度の企画について

・障がい者おしごとネットワーク北浦 研修会

	開催日	参加人数	開催内容
第1回	平成28年6月16日	50名	北浦地域の企業懇話会、意見交換、制度説明
第2回	平成28年9月16日	27名	萩総合支援学校高等部作業学習見学、座談会

ジョブコーチ支援事業

○配置数：1名

○支援対象者数：5名

➤ 広報・啓発活動

○季刊誌発行 年4回

○法人HP（新着情報）への行事報告掲載 年5回

➤ 職員業務研修

○平成28年度 児童・障害者(児)

福祉施設等新任職員研修 1名

○主任職場定着支援担当者交流会 1名

○障害者雇用促進セミナー 3名

《 総括 》

◆ 介護報酬の減収とならないよう、利用者数と利用率の増加に対する取り組みと加算体制の強化・安定に努める。総合事業の開始により、より柔軟な受け入れや利用者の状況にあった対応ができるよう努める。

→認知症実践者研修修了者が2名になったことにより、認知症加算をほぼ毎日算定できるようになり、体制を強化することができた。総合事業対象者を積極的に受け入れ、利用者の状況に合わせた活動を展開した。

◆ キャリア段位制度の導入により、段位獲得者の増加、質の高い介護職員の養成に努める。利用者の重度化が進む中で、介護職員の医療知識の向上等に取り組む。看護職員については、機能訓練の強化と内容・器具の充実に努める。加えて衛生管理(感染予防含)や体調不良・緊急時の対応の強化を図る。

→キャリア段位制度については、今後着実に認定者を増やすよう努力したい。

内部研修の充実と外部研修へ積極的に参加し、介護技術や医療知識の向上に取り組んだ。

従来のマシントレーニングや体操をより充実した内容にし、指先運動や認知症予防に着目した、機能訓練の強化に取り組んだ。

感染対策の強化と迅速な体調不良者への対応により、感染症の拡大は見られなかった。

◆ 転倒予防に着目し、ホールや浴室の環境整備の強化に努める。本人の残存機能を活かせるよう車椅子トイレの改善と快適に横になって休める環境の整備に取り組む。

→おもてなし委員会（環境改善委員会）を中心に、自分たちでできる環境整備はできた。

◆ 食事やおやつの提供において、食器・行事食等の検討を行う。厨房と連携し、作って食べる楽しみを味わえるよう料理教室等の取り組みを行う。

→持ちやすさや軽さを重視した食器に随時変更している。食事委員会を中心に、厨房と連携しながら、カキ氷やチョコレート菓子を手作りなどに取り組んだ。

◆ ボランティアや慰問を積極的に受け入れ、事業プログラムの充実を図る。午前中のプログラムの見直しを行い、充実した時間が過ごせるようなサービス提供を展開していく

→積極的な慰問の受け入れにより、利用者の方の刺激になりプログラムの充実につながったと思う。午前中、指先運動や認知症予防に着目したパズルや卓上で楽しめるゲームを提供した結果、多くの利用者の方に喜んでもらっている。

◆ 利用者数や重度化の状況により、サービスの2分化(環境・支援方法等)の導入を検討していく。→オープンスペースだが、席の配置等により緩やかな二分化を図った。中重度の方が不安なく、穏やかに過ごしていただけるような環境設定を行った。

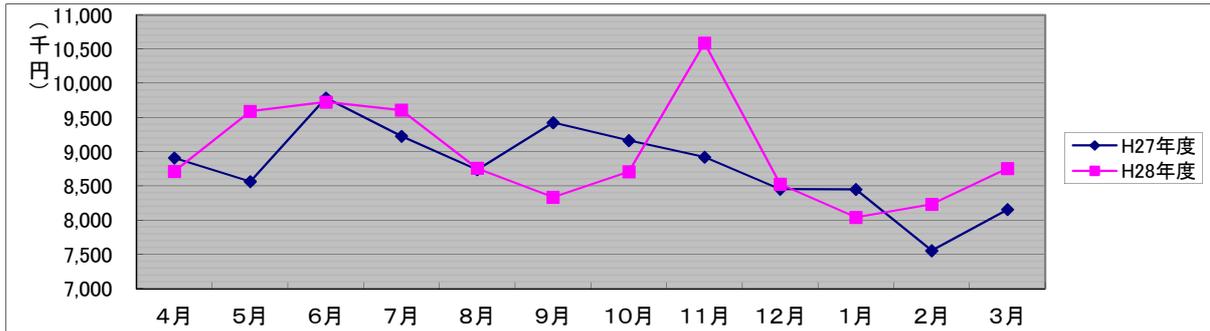
表1:対前年度収入比較 (概算利用者負担額含)

(単位:千円) ※千円以下切捨て

【H27年度】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護保険	7,720	7,404	8,602	8,070	7,533	8,200	7,940	7,710	7,282	7,402	6,457	6,950	91,270
一部負担額	888	861	851	891	949	947	925	905	881	765	817	919	10,599
萩市介護予防教室	228	225	249	201	192	210	225	231	219	213	207	222	2,622
利用者負担額	76	75	83	67	64	70	75	77	73	69	74	65	868

【H28年度】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護保険	7,531	8,300	8,433	8,335	7,602	7,271	7,553	9,281	7,422	7,006	7,178	7,649	93,561
一部負担額	903	998	1,009	986	903	854	898	1,086	899	849	862	911	11,158
萩市介護予防教室	195	195	198	198	174	144	180	153	144	138	141	141	2,001
利用者負担額	84	100	87	88	79	66	78	68	61	50	51	56	868

【集計】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H27年度	8,912	8,565	9,785	9,229	8,738	9,427	9,165	8,923	8,455	8,449	7,555	8,156	105,359
H28年度	8,713	9,593	9,727	9,607	8,758	8,335	8,709	10,588	8,526	8,043	8,232	8,757	107,588



※平成28年11月においては4月～10月の事業対象(みなし利用)の請求をまとめて行ったことによるもの。

◆前年度比 月別、介護度別利用回数等(延べ)

【平成27年度】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護予防教室	76	75	83	67	64	70	75	77	73	69	74	65	868
介護保険	976	953	945	971	934	924	917	915	889	766	877	962	11,029
要支援1	15	21	21	21	19	19	20	23	20	21	24	25	249
要支援2	68	55	65	57	54	45	46	39	36	40	54	59	618
介護1	372	368	372	376	356	347	334	353	345	280	345	396	4,244
介護2	172	177	181	164	164	178	190	176	164	139	167	183	2,055
介護3	171	171	161	190	170	167	157	153	168	145	129	134	1,916
介護4	116	112	97	113	125	120	124	119	109	100	111	120	1,366
介護5	62	49	48	50	46	48	46	52	47	41	47	45	581
利用計	1,052	1,028	1,028	1,038	998	994	992	992	962	835	951	1,027	11,897
稼働率	81%	79%	82%	77%	77%	76%	76%	76%	74%	70%	76%	73%	76%
介護保険事業のみ稼働率	75%	73%	73%	72%	72%	71%	68%	70%	68%	64%	70%	69%	70%

【平成28年度】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護予防教室	65	65	66	66	58	48	60	51	48	46	47	47	667
介護保険	898	961	959	953	954	897	953	877	905	860	852	957	11,026
事業対象	20	40	44	50	71	74	86	89	101	115	128	148	966
要支援1	17	20	20	15	14	4	4	8	7	5	0	0	114
要支援2	42	40	40	44	30	33	26	25	24	16	7	0	327
介護1	365	364	348	352	375	336	370	297	272	241	244	291	3,855
介護2	158	172	175	195	194	191	197	189	218	215	215	268	2,387
介護3	151	157	151	147	131	125	129	132	132	131	133	121	1,640
介護4	99	121	134	104	91	89	98	96	97	85	76	84	1,174
介護5	46	47	47	46	48	45	43	41	54	52	49	45	563
利用計	963	1,026	1,025	1,019	1,012	945	1,013	928	953	906	899	1,004	11,693
稼働率	74%	79%	79%	78%	75%	73%	78%	71%	71%	76%	75%	74%	75%
介護保険事業のみ稼働率	69%	74%	74%	73%	71%	69%	73%	67%	67%	72%	71%	71%	71%

◆平均介護度

平成27年度	2.0
平成28年度	2.1

※介護保険延べ利用者に対する入浴サービス利用者は74%であり、デイサービスでの入浴の必要性が高くなっている。

※男女比率は男性30.4%、女性69.6%となっている。

※中重度ケア体制加算、認知症加算も算定基準から外れることなく、継続的に算定できている。

今後、中重度者・認知症の方の受け入れ、個別対応がより重要となってくる。

※H28年4月からの総合事業の開始により、要支援1.2→事業対象(みなし利用)へ平成29年3月には完全移行している。

※前年度に比べ利用者数は減っているものの、加算等により増収となっている。

## 平成28年度 萩市在宅介護支援センターさんみ苑 実績

### ○ 相談実績累計

	相談形態別累計							その他	夜間	台帳登録者数
	電話	来所	訪問	FAX	会議	その他	計	調整回数	(再掲)	実数
H27	708	46	503	44	0	311	1612	74	7	0
H28	678	22	509	31	9	285	1534	41	61	0

### ○ 相談内容累計

	生活支援・予防事業											介護保険サービス			医療			認知					
	配食	外出支援	乾燥消毒	寝具類洗濯	ヘルプサービス	生活援助ホーム	訪問理美容	介護予防・特定	デイサービス	生活支援	ショートステイ	緊急通報装置	家族介護者支援	その他福祉サービス	在宅サービス	施設サービス	その他	入院	退院	その他	本人	家族・親族	関係機関
H27	217	0	0	1	8	188	32	27	345	68	34	16	10	283	17	5	232	94	17	2	68		
実人数	33	0	0	1	4	68	21	3	140	32	18	11	4	67	8	5	60	32	7	1	24		
H28	292	0	0	2	5	165	12	24	368	34	12	74	25	232	60	28	186	121	6	0	1		
実人数	44	0	0	2	2	76	8	2	147	22	8	45	8	71	31	17	68	40	6	0	1		
	精神				家族・親族関係		虐待				成年後見			その他			合計						
	精神疾患	家族・親族	関係機関	その他	家族・親族 トラブル	地域との トラブル・苦情	その他	高齢者	障害者	一般	その他	市長申し立て	高齢者	障害者	その他	権利擁護		実態把握	その他				
H27	3	3	10	46	0	5	47	0	0	0	1	0	1	0	3	2	177	389	<b>2351</b>				
実人数	3	1	7	17	0	4	26	0	0	0	1	0	1	0	2	2	110	187	<b>900</b>				
H28	11	2	2	30	10	7	48	1	0	0	1	0	0	0	3	1	294	181	<b>2238</b>				
実人数	6	2	2	11	6	5	26	1	0	0	1	0	0	0	2	1	213	118	<b>992</b>				

### ○ 対応実績累計

	相談	情報提供	連絡調整	家庭訪問	取次斡旋	ケース検討	申請代行	会議	研修	苦情	その他	合計	サービス適用実人員	サービス開始人数
H27	737	396	541	484	81	15	109	17	0	1	538	2919	336	109
H28	747	302	697	478	3	9	91	11	0	0	141	2479	350	91

○ 実態把握加算の実績

	実施月												合計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
H27	25	14	12	20	8	10	12	6	7	11	28	19	172
H28	13	48	34	21	10	8	13	7	1	8	14	18	195

○ 求めている支援類型

	ケアマネジメント	社会資源の紹介	対人援助	制度説明確認	研修学習	個人の悩み事	同行訪問	その他	合計
H27	0	36	734	605	0	4	15	246	1640
H28	0	31	719	365	0	12	5	32	1164

○ 地域活動

	地域サロン	体力測定	地域生活体制整備事業	徘徊見守りネットワーク会議	地域行事	合計
H27	25	5		1	2	33
H28	40	4	9	4	2	59

総評：萩市西地域包括支援センターとの強力な連携の下、さんみ苑への直接的な相談に加え、地域包括支援センターへ相談後、包括から連絡を受け、対応も増えた。

三見・山田・木間地区の高齢者へ、介護予防活動や地域生活体制整備事業等にも一員として担い、顔見知りの関係、地域からの信頼を得るように努めた。

個々の対応を大切に、かつ地域全体の不安を少なくなるようにと、活動した。

## 平成 28 年度 居宅介護支援事業所事業報告

### ●総括事項

利用者受入数の上限が国によって定められており、一人のケアマネージャーが担当できるケース数は限られてくるため、利用者の入院や施設入所等、数人の動きが収益等の結果に大きく反映されてくる。

結果的には、前年度を下回る事となった。

しかし、利用者及び介護者はじめその背景をも考慮し、利用者一人一人にきめ細やかな相談援助に努めた。

### ●収益（表 1）

利用者数の推移としては大きな変化はない。

入退院を繰り返す利用者や在宅生活が厳しくなり、施設入所されるなど月ごとの数は変化してきた。また、在宅で長年支援してきた方が逝去されるという現実もあり、結果的に前年度を下回る結果となった。

### ●専門職としてのスキルアップ

主任介護支援専門員更新研修受講要件のための研修など、国からの個々の介護支援専門員に義務付けられた研修に加え、多種多様なニーズに対応できるようにと、各種研修に参加し、自己研鑽に努めた。

概ね毎月 1 回開催された、西包括支援センター主催の事例検討会に加え、同志で開催している事例検討会にも参加した。事業所内でも最低月 1 回の会議を開き、意見交換を行った。

### ●関連機関との連携

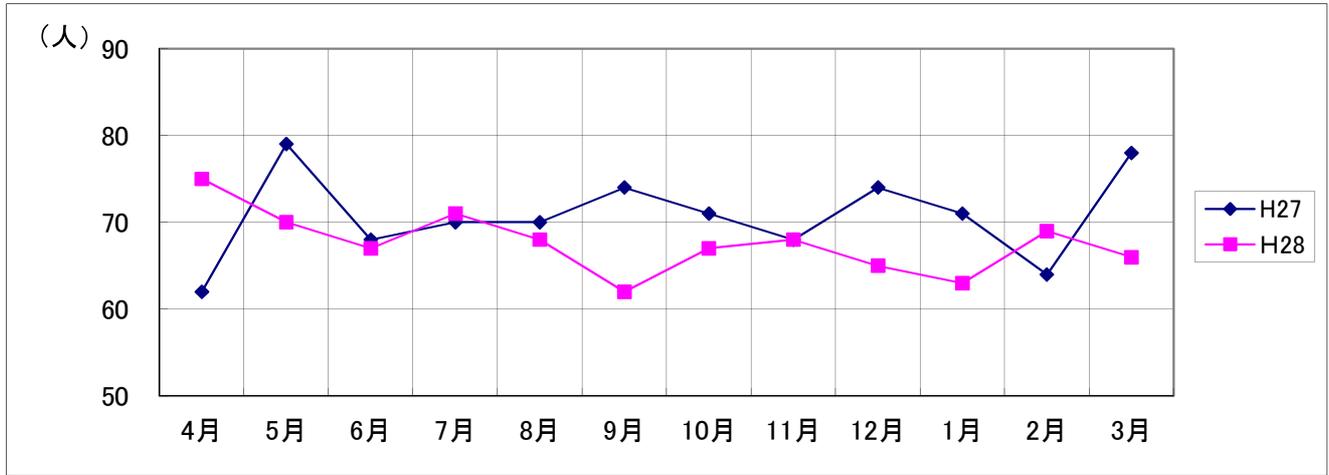
入退院や末期がんの方など医療依存度の高い方の支援も増え、医療関係者との連携を重視した対応が求められ、連携に努めた。

また、地域包括ケアの一員を担う事業所として、関係者と連携をとった。

居宅介護支援事業所 平成28年度

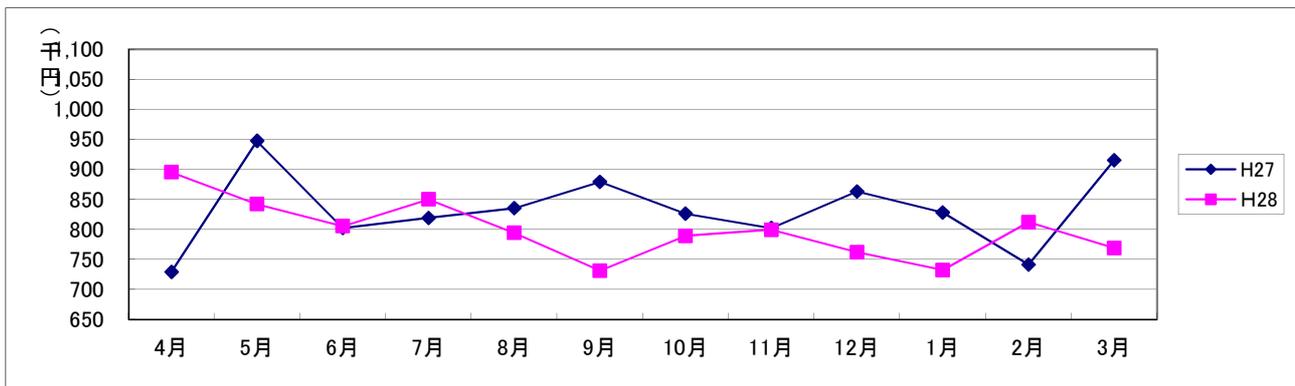
表1  
対前年度利用者数比較

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H27	62	79	68	70	70	74	71	68	74	71	64	78	849
H28	75	70	67	71	68	62	67	68	65	63	69	66	811



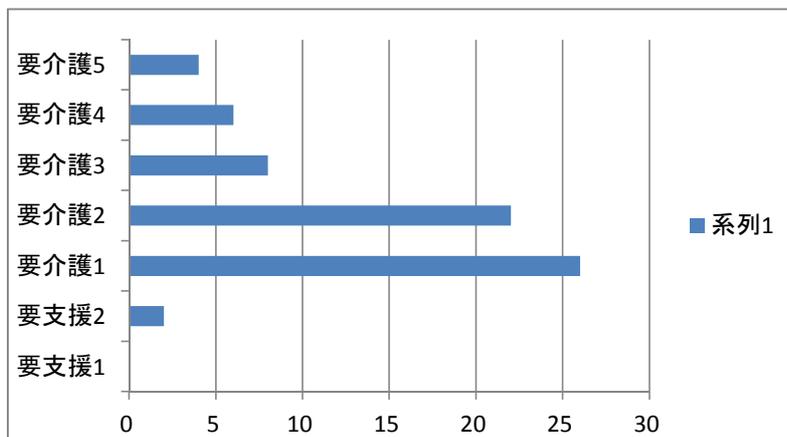
対前年度比介護報酬比較 (単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H27	729	947	802	819	835	879	826	802	863	828	741	915	9,986
H28	895	842	805	850	794	731	789	799	762	732	812	769	9,580



H.28.3月現在の介護度別人数

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
0	2	26	22	8	6	4



## 平成 28 年度さんみ苑給食提供業務事業報告

### ◆食事提供後の検証・改善

- ・障がい部門では、個人個人の食事摂取状況を把握し、口腔内(歯)や嚥下の状態に合う食事形態の検討、実施に努めた。また、提供後の残食量の把握、体重の変化等にも気を配り、給食会議等で支援員・看護師等と連携を取りながら、食事提供量の見直しや問題点の把握・検討・改善に努めた。
- ・デイサービス部門では、利用者の食事形態・嗜好に添った食事提供の打ち合わせを毎日実施。個人個人のニーズに合った食事提供を検討・実施が出来るよう努め、食事提供後も食事状況を確認し、その都度問題があれば調整を行った。  
おやつ作りにも力を入れ、どのようなものが適しているか、不適かをデイサービス職員とも検討し、改善等に努めた。

### ◆楽しみのある食事

道の駅等を活用し、地元の旬の食材を仕入れ、季節に合わせた食事提供や郷土食の提供に力を入れた。行事食も利用者様の食べやすいものを考慮しながら提供した。

### ◆調理職員の研修

利用者様の高齢化に伴い、高齢期の食行動や心理的な要因からくる低栄養に関する研修や、症例からの栄養評価や、改善プログラム等を学ぶ研修に参加した。  
調理員も食中毒予防のための衛生管理等の研修へ参加し、食中毒・感染症の蔓延防止に関する知識の習得に努めた。